

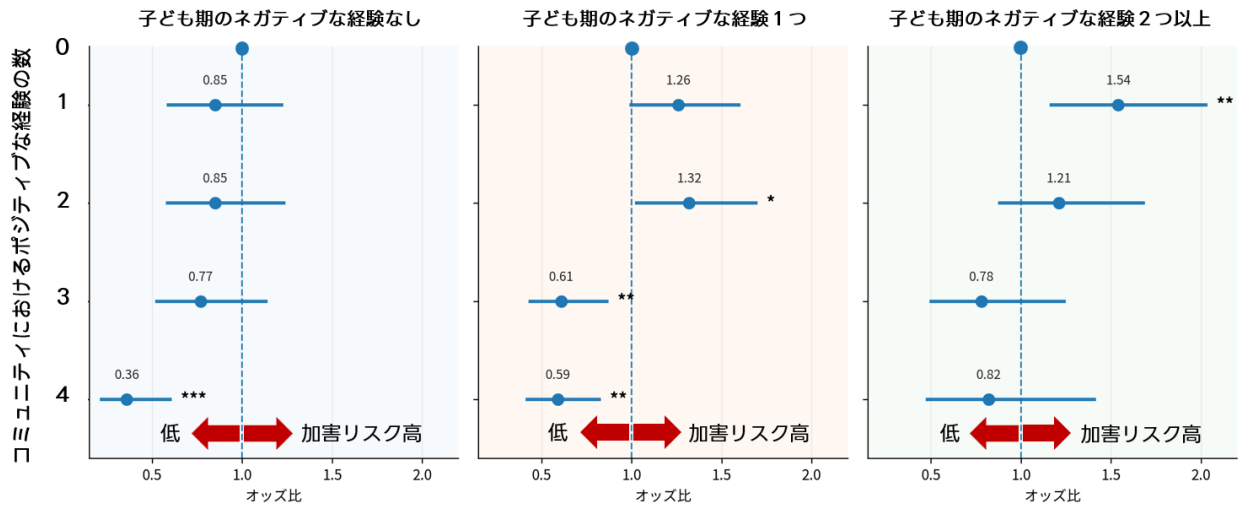
# 高齢者虐待を防ぐ手がかりは“子ども時代”にある？

## —子ども期のポジティブな体験の多さが将来の加害リスクの低さと関連—

### 概要

これまで「虐待の世代間連鎖」という言葉は、子ども期に虐待を受けた人が成人後に自らの子どもへ虐待を行うという文脈で用いられてきました。しかし我々の以前の研究では、この連鎖は高齢者に対する虐待にも及び、暴力の連鎖はあらゆる弱者に及ぶ可能性が明らかとなりました。古賀千絵 人と社会の未来研究院 特定講師らの研究グループは、子ども期のポジティブな経験が成人期における高齢者虐待加害リスクにどのように関連するかを 20~64 歳の男女約 1 万 3 千人を対象に、2022 年 9 月から 10 月にオンライン調査を実施しました。子ども期の経験と高齢者虐待との関連を検討した結果、子ども期に逆境体験がない人の中では、地域でのポジティブな経験が多いほど、虐待のリスクが低いことが示されました。一方で、この関連は子ども期の逆境体験が多い人ほど弱くなる傾向がみられました。本成果は、2026 年 4 月 17 日に国際学術誌「*Journal of Interpersonal Violence*」にオンライン掲載されました。

### コミュニティにおけるポジティブな経験の数別にみた高齢者虐待加害のオッズ比



※ポジティブな経験の数0が参照値  
※逆境体験・ポジティブな経験については、<用語解説>を参照

作成：古賀千絵

## 1. 背景

**子ども期の逆境的体験（Adverse Childhood Experiences: ACEs）**<sup>1</sup>は子ども期のみならず、その後成人期から高齢期にかけての健康にも長期的な影響を及ぼすことが、国内外の研究で示されています。これまでに、子ども期の逆境的体験はうつ症状、認知症、生活機能の低下などに関連することが報告されており、日本の高齢者を対象とした研究でも同様の傾向が確認されています。また、「**虐待の世代間連鎖**」という言葉はこれまで主に、子ども期に虐待を受けた人が成人後に自らの子どもへ虐待を行うという文脈で議論されてきました。しかし近年、子ども期の逆境的体験の影響はそれにとどまらず、高齢者虐待とも関連する可能性が示されてきました。これは、子ども期の逆境体験が、その後の人生における対人関係や暴力行動に幅広く影響しうることを示唆しています。

一方で、**子ども期のポジティブな経験（Positive Childhood Experiences: PCEs）**にも注目が集まっています。子ども期のポジティブな経験には、**18歳未満**の家族との良好な関係や安心できる家庭でのポジティブな経験（family-related PCEs: FPCEs）<sup>2</sup>、地域での支え合いや学校への所属感など地域でのポジティブな経験（community-related PCEs: CPCEs）<sup>3</sup>が含まれます。先行研究では、子ども期のポジティブな経験が多い人ほど、成人後の抑うつやストレスが少なく、より良い健康状態と関連することが報告されています。しかし、子ども期のポジティブな経験が高齢者虐待加害に関連するの、それを子ども期の逆境体験の累積度合いとともに検討した研究はありませんでした。

そこで本研究では、**子ども期のポジティブな経験に着目し、それらが高齢者虐待加害とどのように関連するかを子ども期の逆境体験数の累積度合いとともに検討**しました。特に家庭と地域におけるポジティブな経験を分けて検証することで、高齢者虐待の背景にある子ども期の経験を、より多面的に捉えることを目指しました。

## 2. 研究手法・成果

本研究では、2022年9月12日から10月19日に実施された、日本 COVID-19 and Society Internet Survey (JACSIS) のデータを用いました。JACSISは、日本人の生活習慣、健康状態、社会経済活動などを把握するための大規模インターネット調査です。調査全体では32,000人から回答を得ました。このうち、性別・年齢・収入の確認ができない人、不適切回答者、日常的に65歳以上の成人と関わりのない人、20歳未満または65歳を超える人、虐待や子ども期経験に関する回答に欠損のある人を除外し、最終的に13,318人を分析対象としました。本研究では、子ども期の逆境的体験に加え、18歳未満のポジティブな経験について、家庭でのポジティブな経験と地域でのポジティブな経験を分けて評価しました。そのうえで、これらの子ども期の経験と、高齢者虐待加害との関連を分析しました。以下に記載する結果は、地域でのポジティブな経験に焦点を当てて解説をします。

全体の8.5%に高齢者虐待加害がみられ、**子ども期の逆境体験数が多いほど将来の高齢者への加害割合は高い傾向**でした。また、**子ども期の逆境体験数が多いほど、地域でのポジティブな経験および家庭でのポジティブな経験が0である者の割合も高い傾向**がみられました。つまり、**子ども期の逆境体験の蓄積は、高齢者虐待加害の多さと、ポジティブな経験の乏しさの両方に関連**していました。子ども期の逆境体験の数ごとにみると、逆境体験がない群では、地域でのポジティブな経験が最も多い群で高齢者虐待加害リスクが64%低いことが示されました。逆境体験が1つある群では、地域でのポジティブな経験が2つの人でリスクが32%高い一方、地域でのポジティブな経験が3つ・4つある人ではそれぞれ39%低く、41%低いことが示されました。逆境体験が2つ以上ある群では、地域でのポジティブな経験が1つの人で54%高いことが示されま

した（図参照）。また、特に「親から愛されていると感じなかった」経験がある人では、地域でのポジティブな経験が1つ・2つの人でリスクがそれぞれ44%増、48%増となる一方、地域でのポジティブな経験が4つある人では41%低いことが示されました。全体として、ポジティブな経験が乏しいほど高齢者虐待加害リスクが高く、十分にある場合は低い傾向がみられました。

### 3. 波及効果、今後の予定

本研究の成果は、子ども期のポジティブな経験が将来の暴力加害リスクを低減する可能性を示しました。一方で、それだけでは暴力の連鎖を防ぐことは難しいこと、さらに子ども期のポジティブな経験は1つではなく多方面から必要な可能性も示されました。地域での支え合いや学校への所属感など、子どもたちが多様な地域資源にアクセスできるまちづくりが必要ではないかと考えます。これは、暴力の連鎖を断ち切るための一つの鍵となる可能性があります。今後もどのようなまちづくりは暴力を予防できるかについて検討していく予定です。

### 4. 研究プロジェクトについて

本研究は、日本学術振興会（JSPS）科研費（課題番号：21H04856、20K10467、20K19633、20K13721、24K16531、25K01387）、JST 助成金（課題番号：JPMJPF2017）、厚生労働科学研究費補助金（21HA2016）、横浜市立大学の2021-2022年度戦略的研究推進事業助成金（No. SK202116）、および東京財団政策研究所において実施された「健康指標を用いた保健政策の影響のモニタリングと評価」に関する研究プログラムの支援を受けて実施されました。

#### <用語解説>

- 1. 子ども期の逆境的体験：**以下の7項目を評価（親が亡くなった、親が離婚もしくは別居した、親が精神疾患を患っていた、父親が母親に暴力を振るっていた、親にひどく殴られてケガをした、食事や着替えなど、必要な世話をしてもらえなかった、親から愛されていると感じなかった）
- 2. 子ども期の家庭でのポジティブな経験：**以下の3項目を評価（家族に自分の気持ちを話すことができた、大変なときに家族が支えてくれたと感じていた、家にいる大人が守ってくれて安全だと感じていた）
- 3. 子ども期の地域でのポジティブな経験：**以下の4項目を評価（自分に興味を持ってくれる親以外の大人が少なくとも二人はいた、友達に支えられていると感じていた、中高生の頃学校に居場所があると感じていた、地域の伝統行事に参加して楽しかった）

#### <研究者のコメント>

本研究は、子ども期のポジティブな経験が、将来の高齢者虐待加害リスクの低さと関連する可能性を示しました。これは、子ども食堂や地域の居場所づくりのような実践が、子どもの現在の生活を支えるだけでなく、長期的には暴力の予防にも資する可能性を示唆するものです。虐待や逆境体験を減らすことに加えて、安心できる居場所、信頼できる大人との出会い、受け入れられる経験を社会の中で増やすことの重要性が改めて示されたと考えています。

#### <論文タイトルと著者>

タイトル：The Role of Positive Childhood Experiences in Intergenerational Violence and Elder Abuse（世

代間暴力と高齢者虐待におけるポジティブな子ども期体験の役割)

著 者 : Chie Koga, Taishi Tsuji, Masamichi Hanazato, Takeo Fujiwara, Takahiro Tabuchi

掲 載 誌 : *Journal of Interpersonal Violence* DOI : <https://doi.org/10.1177/08862605261437087>